

有機栽培の推進のため水稲栽培技術の事例集を作成！

【研究のポイント】

消費者の食の安全・安心への関心や有機農産物に対するニーズを踏まえ、本県では平成21年2月に「大分県有機農業推進計画」を策定し、有機農業を推進しています。
 しかし、水稲では温暖多雨な気象条件により有機栽培が難しいのが現状です。
 そこで、持続的で安定した水稲の有機栽培の取り組みを支援するため、有機栽培実践農家の優れた事例を収集し、取りまとめました。



【実践事例①】

<自然農法(資材無投入農法)－宇佐市>
 ○生産者の概要 栽培面積10ha、労働力6人、有機JAS認証：2008年
 (1.3ha)
 ○特徴
 ・圃場外から各種資材(農薬・肥料など)を一切持ち込まず、麦などの輪作も行わず、水稲単作で栽培する農法です。地域の生産者とともに24haで栽培しています。
 ・前年のわらの鋤き込みのみで肥料等の施用はしていませんが、雑草害が著しくなければ、収量は平均300kg/10a程度を継続して確保しています。

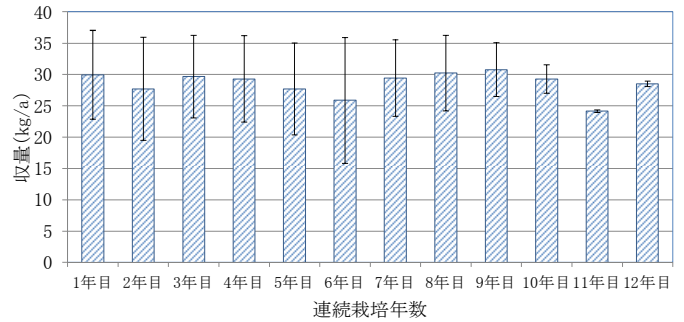


図 資材無投入農法における連続栽培年数と収量の関係

【実践事例②】

<合鴨農法－九重町>
 ○生産者の概要 栽培面積1.7ha(うち合鴨農法0.9ha)、労働力4人、有機JAS認証：2006年(0.9ha)
 ○特徴
 ・土壌改良資材として、カキガラを80kg/10a施用し、冬期間に米ぬか300kg/10a程度、基肥として有機肥料(放線有機)60kg/10aを施用しています。
 ・合鴨の放飼方法は、水稲移植後、竹箒で除草作業を実施した後、逃亡防止を目的に圃場周囲に柵立てし、カラスよけに釣り糸を地上1.5m高で張り、古米を撒いて圃場内に合鴨を誘導します。
 ・有機肥料を施用しているため、生育量が確保でき、収量も10a当たり500kg程度が得られています。



【研究の成果】

【事例集を作成！】
 場内試験の結果や過去の有用な技術を含めてとりまとめ、事例集を作成しました。
 この事例集について、詳細をお知りになりたい方は下記の連絡先までお問い合わせください。



(事例集の内容)

- 1 県内における栽培事例
 - (1) 自然農法(資材無投入農法)
 - (2) 合鴨農法
 - (3) 有機栽培農家アンケート調査結果
- 2 有機栽培にかかる要素技術の研究
 - (1) ヘアリーベッチの緑肥効果(2011)
 - (2) 合鴨式除草機の作業性能(2011)
 - (3) 冬期湛水による水稲の生育と雑草の抑制効果(2012)
- 3 過去の要素技術の研究(普及カード)
 - (1) 有機減農薬米栽培における雑草の耕種的防除法(1992)
 - (2) レンゲ跡水稲の窒素施肥法(1996)
 など7つの技術
- 4 参考資料(有機栽培に関する技術)

【関係者の声】



県内の優れた事例や過去の参考となる技術が分かりやすく、取りまとめられており、大変参考になる資料です。
 これから、有機農業に取り組む生産者への指導などに活用させて頂きたいと思えます。

NPO法人おいた有機農業研究会 理事長 吉野賢一さん

【連絡先】

農林水産研究指導センター 農業研究部 水田農業グループ 作物栽培チーム
 TEL:0978-37-1160